

～子どもたちがデジタル社会のよき担い手となるために～

音更町教育委員会

デジタルネイティブ世代の子どもたちは、生まれた時からインターネットがあるのが当たり前で、大人の想像をはるかに超えた経験をしています。また、デジタルネイティブの子どもたちが直面する課題の多くは、大人にとって未経験なものもあり、正解もひとつではありません。

AIなどのデジタル技術がますます社会で活用される中で、優れたデジタル市民になるために必要な能力を子どもたちが身につけられるよう、学校での教育・指導だけでなく、ご家庭でも「デジタル・シティズンシップ」について理解を共有することが大切です。

※「デジタルネイティブ世代」・・・生まれたときからインターネットがある環境で育った世代のこと。1990年以降に生まれた人を指すことが多い。

※「デジタル・シティズンシップ」・・・デジタル技術の利用を通じて、社会に積極的に関与し、参加する能力のこと。

情報モラルだけでなく、デジタルシティズンシップも

情報モラルとは、情報化社会で適切な活動をするための倫理のことで、特にインターネットの利用によって自らを危険にさらしたり、他者を害したりしないようにするための考え方や道徳上の規範を指します。こうした知識を得ることはとても大切なことですが、危険について教えるだけでなく、『デジタルツールを正しく理解し、上手に活用する力をつけることや、その力を社会に役立てるといったポジティブで積極的なデジタルの学び』＝『デジタル・シティズンシップ教育』が必要とされています。



「大人」から「子ども」を主語に

「大人」が決めた約束を守ることを教えるだけでなく、「子ども」が自分で考え行動するスキルを習得していくことが大切です。

デジタルネイティブ世代の子どもたちは、YouTubeやX（旧Twitter）、TikTokなどのソーシャルメディアをコミュニケーションツールとして日常的に利用しています。

インターネットやソーシャルメディアなどの危険性だけを指摘し、「抑制する、制約をかける」だけでは足りないのではないのでしょうか。

日常のデジタル化によるICT位置付けの変化

日常のデジタル化によるICT位置付けの変化

	これまで(GIGA前)	これから(GIGA後)
学校	デジタルは非日常 教員が使わせる教具 ネットコミュニケーションなし	デジタルは日常 子どもが道具立てる文具 情報ライフライン
家庭	日常はデジタル化 生活に不可欠 私的コミュニケーション 勉強以外の情報消費	日常デジタル利用の深化 生活と学びに不可欠 私的公的コミュニケーション 情報消費+知的生産
	大人の指導 > 子どもの活用	子どもの自律 > 大人の介入

引用：安心安全な利活用とデジタル・シティズンシップ教育/文部科学省

GIGA後の学校では、デジタルは日常であり、デジタルツール（タブレット）は文具です。

また、デジタルツールが生活と学びに不可欠なものとなったことから、大人の介入よりも子どもの自律に重点が置かれています。

「危険だから使わせない」だけではなく、家族や保護者が子どもたちの一番の理解者であることを示し、一緒に課題と向き合い、対応する「対話」の機会を持つことが大切です。

1 子どもの発達段階に応じた声かけをする

子どもたちは、発達段階に応じて、自分中心の視点から相手の立場で想像することを覚えたり、抽象的概念や論理的な思考を身につけていきます。

子どもとの「対話」は、大人の考えを一方向的に押し付けずに、子どもの発達段階をよく理解したうえで進めることが大切です。



2 3ステップを意識し継続的に対話する



引用：家庭で学ぶデジタル・シティズンシップ/総務省

デジタル社会での子どもの行動、経験を聞き、どのようにすればより良くできるかについて計画を立てます。（「動画は一日に15分までにしよう」、「毎週金曜日にルールについて一緒に振り返ろう」など、実践可能なものにするのがポイントです）

まずは1週間、計画を実行し、定めた期間が終了したら、ふりかえりを行い、同じ計画を継続して実行するのがよいか、新たな計画へと改善するかについて話し合しましょう。

3 子どもの個性を尊重し、一緒に行動を分析する

子どもの話を傾聴し、子どもの気持ちの変化や行動に共感を示すことや、安心・安全な対話の場を作ることが重要です。

また、小学校高学年以降は、これに加え、自分の行動の理由について、子どもが社会と自身との関わり方を客観的に分析できるよう、共に考えることも大切です。

例) × 「なんでそんなことしたの？」

○ 「何があったの？」 ⇒ 「そのときどう思ったの？」 ⇒ 「どうすればよかったですか？」



現代の子どもたちは、変化の激しいデジタル社会を生きていく世代です。

デジタルシティズンシップの考え方を通じて、「自分で考え、行動し、失敗することがあっても乗り越えていける」力の育成にご理解とご協力をお願いします。